

特別企画② テレワークの 導入で多様な 働き方を

テレワークは、そのメリットから、採用する会社が増えてきています。今回は、テレワークが導入されている株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバルに依頼をして、実際にテレワークをしている岩崎佐知子さん、今福蘭さん、そして広報・渉外室の富田早季さんに、会社における取り組みなどのお話を聞きました。



今福 蘭さん 岩崎佐知子さん 富田早季さん

・株オリエンタルコンサルタンツグローバルを就職先に選んだきっかけを教えてください

岩 私は中途採用で入社しました。前の職場は遅く始まって遅く終わる会社でしたので、2人目の子供を妊娠した時に、フレックスタイム制の会社を探しました。(株)オリエンタルコンサルタンツグローバルはフレックスタイム制を導入していたこともあり、面接に応募したことがきっかけです。

今 私も中途採用で約10年前に入社しました。私は大学院で国際関係論を勉強していましたので、ODAの仕事を中心に途上国の社会基盤の向上に寄与している株オリエンタルコンサルタンツグローバルに応募することにしました。2歳半過ぎの子供がいます。

・岩崎さん、今福さんの携わっているお仕事の内容を教えてください

岩 私は社会人になってからずっと経理の仕事をしていて、転職の時にも経理の仕事を探しました。今は経理の中でも決算関係の仕事をしています。

今 私はプロジェクト業務支援の仕事をしています。プロジェクトの請求・入金管理やドキュメント準備など、本社での事務的な仕事がメインですが、海外の現場に行くこともあります。

・テレワークを始める前はどのような就業形態でしたか？

富 会社の就業規則上、9時から17時が定時です。フレックス制を選べば、10時~15時が出勤しなくてもいいけど、コアタイムとなりますが、コアタイム以外の就業時間を前後にずらすことができます。

また、育児・介護などの目的で申請すれば、フレックスのコアタイムを月に4回は外すことができるようになっていきます。

岩 私は朝早くに出勤して、終業を16時にするようにし、18時まで保育園にお迎えに行けるようにしています。会社を出る時間が16時と17時では、全くその後の家事や育児の負担感が違います。

今 海外の現場に行くときは、1か月ほど海外に滞在することもあります。その間は夫が中心になり、子供を見てくれています。出張の有無に関らず、ファミリーサポートとベビーシッターを毎週利用しています。

富 日本国内でベビーシッターを利用する社員もいますが、出張に子供を同伴し、子供を現地のベビーシッターに預けることも、珍しくありません。

・お二人がテレワークを始めた理由を教えてください

(株)NTTデータでは入社3年目からテレワークを希望できます。自分で完結してできるような仕事に向いていますが、テレワークでできない仕事は、実はそれほどありません。また、今のところ週一回テレワークを認めるという企業が多く、このような形であれば管理にもほとんど支障がありません。

業務に集中したい場合、自宅の方が生産性が向上するというアンケート結果が出ています。室温が調整できない会社よりも自宅の方が、自分に合った室温にできるので仕事やり易いという声もあります。

そのほかに、北村さんが所属する事業部では、月に2回、「NO会議DAY」

岩 長男が小学校1年生、次男が保育園に通っています。子供が小学校に入学すると、学校が早く終わる日があるなど、ライフスタイルに変化が訪れるためテレワークをするかどうか検討しました。

今までテレワークは、技術職の方が申請しやすく、事務職は申請しにくいというイメージがありました。既にテレワークのトライアルは始まっており、社内には女性活躍推進を検討する委員会もありました。

そして、平成29年4月からテレワークを始めることにしました。富 女性活躍推進法が施行されたことに対応して、社内では女性活躍推進を検討する委員会が発足しました。男女半々で10名が所属する委員会、平成28年4月1日には、女性が管理職として活躍できる雇用環境の整備・向上を行うための行動計画を策定しました。

・テレワークの良いところはどのようなところでしょうか？

岩 子供は毎週のように風邪をひくので、その時に近くにいれはすぐに医療機関で受診できるため、その後の対応が変わってきます。特に、急に熱を出して子供を保育園に迎えにいかなければならない時に、近くにいることで、会社から戻るよりもずっと早くなります。

を設け、テレワークをしやすいようにしています。

5. テレワークの広がり

テレワークは、社会・企業・従業員それぞれにメリットがある素晴らしい働き方です。自宅ばかりでなく、サテライトオフィス、カフェ、電車の中などどこでもできますし、フレックスタイム等も活用することにより、空間のみならず、時間もフレキシブルに利用できるようになっています。

テレワークを有効活用して、離れた場所に住んでいる親の介護と仕事を両立する例も出てきています。

今後テレワークが広がってけば、仕事、プライベート、それぞれがより充実したものになり、人々がより幸せを感じることで温かい社会になっていくのではないのでしょうか。

大きな差があります。時差があるからこそ、テレワークを活用し、連絡を取り合うことが多くなってきています。

3. テレワークの効果

荒木さんは、2016年4月より(株)NTTドコモから(一社)日本テレワーク協会に所属してきています。出向前は、自分の会社に在宅勤務の制度があるのは知っていましたが、誰もが対象になり得るという意識がなく、育児等を行う女性が取るものというイメージがあったそうです。協会に出向し、その認識が大きく変わったといえます。

現在の仕事は、世の中にテレワークを普及させていくことであり、会員企業の部会活動や総務省からの委託事業を行っているそうです。

テレワークの効果としては、①社会にとつてのメリット、②企業にとつてのメリット、③従業員にとつてのメリットがあります。

少子高齢化社会では労働人口が減少しますので、女性、高齢者、ハンディキャップを持つ人などが働ける社会になることは、非常に大きな意味を持ちます。

テレワークのメリット

会社

- ①優秀な人材を集められる
- ②育児や介護による人材の離職を防止できる
- ③業務効率・生産性が向上する
- ④災害時でも事業継続が可能となる
- ⑤ペーパーレス化等でコストを削減できる

個人

- ①育児や介護と仕事の両立が可能になる
- ②通勤負担軽減など精神的・肉体的に楽である
- ③趣味・余暇・勉強など時間を有効に使える
- ④業務に集中でき効率が上がる
- ⑤自律的に仕事ができ仕事への満足度も高まる

取材を終えて

まだまだ広がらないテレワークですが、東京都も目指しているし、政府も力を入れています。少しずつ広がっていることがうかがえます。現在「働き方」は過渡期に入っているのではないのでしょうか(佐)